有島武郎全集

第九卷

筑摩書房

有島武郎全集第九卷
昭和五十六年四月三十日　初版發行

著　者　有島武郎
發行者　布川角左衞門
發行所　東京都千代田區神田小川町二ノ八
筑摩書房
郵便番號　一〇一―九一
電話　〇三(291)七六五一(營業)
〇三(294)六七一一(編集)
振替　東京　六―四一二三
印刷　株式會社精興社
製本　株式會社鈴木製本所

0395-70909-4604 Printed in Japan

目次

評論・感想

宣言一つ……五
藝術について思ふこと……一一
自由は與へられず……一八
驚異……二〇
廣津氏に答ふ……二三
生活よりヂョーナリズムを排せよ……二九
野尻湖……三三
片信……三四
小兒の寐顔……四四

想　片……四五
互ひの立場を認めよ……五一
己れを主とするもの……五五
生活の歐化と文化生活……五八
描かれた花……六一
生命によつて書かれた文章……六九
都會とその美……七〇
心に沁みる人々……七三
人間と幸福……七九
木曾山中……八二
「泉」を創刊するにあたつて……八四
小作人への告別……八六
「靜思」を讀んで倉田氏に……九一

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

文化の末路……一四四
永遠の叛逆……一五二
詩への逸脱……一五七

雜　編

あつた方が好い……一六一
藝術家名鑑……一六一
詩人の境涯を羨みて……一六二
お詫します……一六三
本誌の讀者に……一六三
お詫び……一六四
ブルヂョア風の藝術にかぶれるな……一六五
余が代議士であつたら……一六六
佛蘭西現代美術展を見て……一六六

〔『星座』第一卷廣告文〕……一六七
〔『ホキットマン詩集』第一輯廣告文　二〕……一六七
本書を讀みて〔『涙の底から』序〕……一六八
自由詩の自由といふ意味……一七〇
〔『創作太陽の沈みゆく時』序〕……一七〇
新しき村電氣事業寄附募集……一七二
〔『米國學生生活』序〕……一七二
書　後〔『藝術と生活』跋〕……一七三
〔『泉』廣告文〕……一七五
〔『藝術と生活』廣告文〕……一七六
日本ラインから……一七六
讀者と直接の關係……一七七
有島武郎先生より〔『創作太陽の沈みゆく時』第二卷序〕……一七七
〔『都市計畫と汚物處理』序〕……一七八
〔談話に就いて本誌の讀者に〕……一七八

大正十二年度 最新文士錄……一七九
〔『新島襄』序〕……一七九
〔『ホキットマン詩集』第二輯廣告文〕……一八〇
「ホキットマン詩集」第二輯を出すに當つて……一八〇
有島氏から……一八一
序〔『濕地の火』序〕……一八二
〔『クラルテ』推薦文〕……一八二
作家の愛讀書と影響された書籍……一八三
〔アンケート〕……一八四

講演・談話

滿韓旅行と個人雜誌……一八七
心の美しさを其儘表情に出す女……一八八
子供は如何に教養すべきか……一八九
松前追分……一九〇

第四階級の藝術……一九二
舊年新年無差別……一九三
今の様な結婚制度は抽籤の一種類……一九四
人の本性に就て……一九六
雪の日の思ひ出……一九八
社會には何故に溫かい同情心が無いのか……一九九
マルクス女史の『女』に就いて……二〇二
主義はない……二〇三
批評に對する感想……二〇四
卅年前の來月の今日詩人ホイットマン眠る……二〇五
謠曲『綾鼓』……二〇七
私の見た感想……二〇八
愛されざるの寂しみと愛し得ざるの苦しみ……二一〇
過激社會運動取締法案に就て……二一二
帝劇改作問題は我々に何を考へさすか……二一三

感　想……二二五
藝術と革命の關係……二二七
ホキットマンに對する一英國婦人の批評……二二九
反キリスト教問題より一般宗教批判へ……二三三
子供の世界……二三五
私の態度……二三七
よりよき社會への生の惱み……二三九
繰り返しの生活を憎む……二三〇
偶　感……二三二
子供の素樸さ……二三三
教育者の藝術的態度……二三四
三大偉人の懺悔……二三六
虐げられたる生命の爲めに……二三九
言葉と文字……二四一
社會改造の出發點……二四二

紅海を離れて……二四四
獨り行く者……二四五
親と子の問題……二四七
鑑賞……二四九
婦人達よ速かに自己に徹せよ……二五一
上田博士の就任を機に漢字制限に就ての
　意見を徴されたのに答ふ……二五四
人間は誇大する動物である……二五六
文藝に就いて……二五八
政治と藝術の爭鬪……二六八
ゴシックの美と力……二七一
感想二つ三つ……二七四
新舊藝術の交渉……二七六
卽　實……二九三
卽實の生活と宗教……三〇二

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

獨り行くもの……三〇八
罪は何れに有り……三一〇
卽實の生活……三一三
若き男女の結婚生活を脅かす家族制度本位の舊思想……三一七
若い女性の訴を聽きて……三二一
文化生活と個人生活の徹底……三三三
愛に就いて……三三六
人間生活から光を奪ふ……三五六
愛の純眞と女性の獨立……三五八
愛の圓味をもつたナターシャ……三六三
革命心理の前に横はる二岐路……三六四
私有農場から共產農團へ……三六五
『斷橋』の題材……三六九
農場開放顚末……三七〇
道德と道理……三七四

私が女に生れたら……三八五
知識階級といふもの……三八五
農村問題の歸結……三八七
本性の失はれる學校教育……三八九
私の妻を迎へぬ理由……三九〇
貞操觀念を解放せよ……三九二
生活革命の動機……三九三
文化生活の基礎……三九五
藝術教育私見……三九六
藝術を培ふ科學精神……三九九
時評……四〇二
狩太農場の解放……四〇五
農民文化といふこと……四〇八
異つた立場で……四〇九
現代婦人と文學……四一〇

飴と飴細工師との問題……四一二
自己の眞に求むる唯一人の異性に憧るる心……四一三
兩階級の關係に對する私の考……四一六
文化に就いて……四一九
行詰れるブルジョア……四二五
唯物史觀と文學……四二八
恥なき生活……四三一

〔草稿〕

「靜思」を讀んで倉田氏に〔草稿〕……四三五
校　異……四四五
解　題……四五一

評論・感想 三

評論·感想

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com